

当院における閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群の クリニカルパスの検討

——終夜ポリグラフィーの睡眠効率を中心に——

豊島 秀夫* 吉村 力* 石橋 正義*
山下真寿美** 木村 智子** 渡辺憲太郎*

*福岡大学病院呼吸器科

**福岡大学病院 7 階病棟

要旨：閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群（OSAHS）と診断された患者に当院で行われた終夜ポリグラフィー検査の妥当性を検討する目的で、クリニカルパスでバリエーションとしてあげられた機器の装着状況と睡眠状態について検討した。

当院において平成15年 5 月31日から10月22日までに 7 階病棟個室でクリニカルパスを用いて 1 泊 2 日で終夜睡眠ポリグラフィー検査を施行し、閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群と診断された41症例（男性34例，女性 7 例）を検討対象とした。機器の装着状況の確認は午前 7 時に担当医が行った。睡眠状態については睡眠効率（覚醒時間を除いた REM 期と睡眠ステージ 1 から 4 の合計を総臥床時間（total time in bed）で除した百分率）で評価した。

機器が外れていることが確認されたのは43歳男性の 1 症例で、右下肢筋電図の二つの電極のうちの一つが外れていることが検査終了時に確認されたが、検査判定に特別な問題はなかった。全症例での総臥床時間は 593 ± 41 分で総睡眠時間は 444 ± 60 分であり全症例における睡眠効率は $75.0 \pm 9.6\%$ であった。年齢，性差，昼間の眠気の強さ，睡眠導入剤の有無によって睡眠効率は有意差を認めなかった。BMI が25未満の群では睡眠効率が低い傾向があり，特に中軽症群では25以上との群の間に有意差がみられた。

当院において終夜ポリグラフィーは信頼性をもって施行可能と考えられた。

索引用語：閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群，終夜ポリグラフィー，睡眠効率，クリニカルパス